

Tazaki 財団英国留学奨学金留学成果報告書

一橋大学

所属学部・学年	社会学部・3年	氏名	中村彩乃
派遣先国 (地域)	イギリス グラスゴー	派遣先大学	グラスゴー大学
派遣期間	令和5年9月～令和5年5月		

留学目的の達成度・留学成果について

留学への出発にあたり、一橋大学で専攻する社会政策について国際的な視点からの学びを深めることと、住み慣れた日本の環境を一度離れ、世界の人々や異文化と日常的に交流することを通して、英語運用能力や国際感覚を養うことの2つを目的としていました。9ヶ月の留学生生活を振り返ると、この2つの目的は概ね達成できたと感じます。社会政策に関する学びという点では、私はグラスゴー大学の Social and Public Policy プログラムに所属し、主に現代社会において公共政策が社会課題に対してどのようにアプローチをしているのかについて、スコットランド/英国、そして国際的な文脈から幅広く学習しました。期待していたとおり、スコットランドや英国の政策モデルと日本の政策モデルにはあらゆるレベルでの差異があり、様々な社会的・文化的バックグラウンドや価値観を持つ学生間でも政策をどのように位置づけ、捉えるかについての考えに違いがありました。また、自分とは異なる発想を尊重し、価値観の多様性を重んじるという大学全体の雰囲気によって、政策や社会課題についての活発な議論が後押しされていたというふうに感じます。このような学究環境での学生・教授達との議論や事例研究を通して、まさに「テキストブック」を読むことでは得られない人々の見方や知識を吸収してることができたと考えます。また、人々や文化との交流という点では、国際寮での共同生活や大学の講義、大学ソサイエティでの活動などを通して、多様な背景を持つ学生や教授と接する豊富な機会に恵まれました。特に、国際寮での生活は、世界各国から学びにきている志の高い学生と共同生活を送り、日常的に交流できるという点で、非常に充実した素晴らしい環境であったと思います。総括して、今回の留学を通して得られた経験は、自分にとって大いに意味のあるものになりました。

海外での生活について

生活環境としては、私はグラスゴー大学が提供する学生寮の一つである Wolfson Hall に居住していました。この寮は主に1年目の正規学部生が多く利用しており、朝夕は学生全員が一堂に会して食事をとるスタイルの寮であったため、他の学生と交流する機会が豊富にあり、派遣留学生である私もすぐにコミュニティに溶け込むことができました。このような環境のおかげで、自然と友人も増え、お互いの出身国で制作された映画の鑑賞会をしたり、伝統料理や郷土料理を一緒に作ったりするなど、文化交流の機会に恵まれました。普段の過ごし方としては、平日は毎日、講義や学内イベントに参加するため、ほとんど一日中大学で過ごしていました。特にライブラリーと JMS と呼ばれる自主学習スペースのある講義ビルは、朝早くから夜遅くまで勉学に励む学生で満席になっており、彼らの姿は私にとっても学業に取り組む上で非常に大きなモチベーションとなりました。週末には、22歳未満の個人が利用できる Young Scot Free Bus Travel を活用し、スコットランド各地の都市を訪れ、歴史博物館や文化遺産を訪問することが楽しみでした。

派遣先大学の授業内容について

グラスゴー大学では、社会公共政策の授業を中心に、計6コースを履修しました。コースによって週の授業数は異なりますが、基本的には受講生全てが集う1時間または2時間のLectureと、各回のトピックを決めて議論やプレゼンテーションを中心に行う少人数制のTutorialによって構成されています。社会公共政策のコースでは、英国における福祉国家の誕生から現代までの系譜を辿る授業から、福祉レジームや個々の社会政策を形作るイデオロギーについて議論する授業、政治や市民運動などがどのように政策に介入し、影響を及すのかを学ぶ授業などが展開されており、多様な観点から社会政策の役割・存在意義についての考えを深めることができました。特に、Social and Public Policy 2B というコースは、ジェンダー、アクティビズム、若者の生活困難、社会的危害といった、英国やスコットランドの政策で取り組まれている主要トピックを幅広く扱っており、非常に学びが多かったです。

今後の学習・進路への影響について

グラスゴー大学での学習経験を通じて、社会政策という研究領域への関心がいっそう高まりました。特に、政策の意思決定プロセスにおけるパワーダイナミクスの影響や、公共政策がジェンダーの異なる人々に及ぼす影響およびその結果のギャップ、そして政策の不備が引き起こす社会的危害など、今後の学習で探求していきたい多くの重要なテーマに出会いました。進路についても、社会政策や社会課題の解決に携わっていきたいという思いが強くなり、今後とも、公共性を活かした立場で日本の政策や社会に寄与することができるキャリアを模索していきたいと思います。

寄附者への謝意

この度は、Tazaki 財団様に英国への派遣留学に際して多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。Tazaki 財団様のご支援により、私はこの留学期間中、グラスゴー大学での学びに加え、異文化や素晴らしい友人たちとの出会いなど、多くの貴重な経験を積むことができました。社会政策を学ぶ身として、福祉国家に関する豊富な歴史を持ち、この分野の研究で世界を牽引してきた英国の大学で学ぶことができた1年間は、私の人生においてかけがえのない時間となりました。英国・スコットランドの政策についての知見を深め、異なる文化や価値観を持つ人々との交流を通じて、社会全体や、自分自身への視野を一段と広げることができたと思います。今回の留学経験をもとに、私は日本社会や国際社会においてより良い貢献ができる人間へと成長していくことができるよう、今後も自己研鑽を積み重ねてまいります。

改めまして、Tazaki 財団様のご支援に深く感謝申し上げます。